

海外安全対策情報（令和3年1月～3月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。また昨年8月に実施された大統領選挙以降、連日各地で抗議活動が行われました。抗議活動参加者と治安部隊の衝突により、多数の集会参加者等が拘束され、死傷者も発生しました。現在も散発的にインターネット等で抗議活動が呼びかけられており、治安当局の圧力が高まることが十分予想されます。ベラルーシに滞在中の方は、常に報道等により最新情報の入手に努めるとともに、抗議活動が行われている場所（街の中心部や大通り沿い、広場、地下鉄駅周辺など）や群衆が集まる場所には近づかない、外出時は旅券等身分証明書を所持するなど、十分注意してください。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2021年1月1日から3月31日までのベラルーシにおける犯罪総数は22,316件で、前年同期と比較し19.1%増加しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗4,904件（前年比24.4%減）

（うち住宅対象侵入窃盗）1,793件（同9.3%減）

イ 公然窃盗297件（同5.4%減）

ウ 恐喝106件（同41.3%増）

エ 詐欺1,076件（同29.6%増）

オ 暴力犯罪806件（同6.1%減）

カ 殺人及び殺人未遂62件（同20.5%減）

キ 重傷傷害175件（同18.2%減）

ク 強盗22件（同37.5%増）

ケ 強姦及び強姦未遂16件（同23.1%増）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2021年1月～3月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 1月23日深夜、ブレスト市で絞殺未遂事件が起こった。酔った27歳の男は、タクシーの後部座席に座ると、大声で恫喝しながら腕で運転手の首を絞め始めた。タクシー運転手は脱出し、近くの駐車場にいた同僚と共に、追ってきた男を押さえ込んだ。男は、殺害脅迫の刑事事件として告発された。

イ 2月2日付ベラルーシ共和国犯罪調査委員会の発表によると、2019年7月から9月に渡り、ミンスク市在住の2人の19歳男性らは、市内にあるショッピングセンターやカフェなど、住民が多く集まる施設で、未成年の児童と知り合い、様々な口実を使って借りたスマートフォンやSIMカードにアクセスすると、特殊なアプリを使って、通信会社にローンを借りる形で、現金を異なる銀行口座や電話番号へと送金した。容疑者たちの取調べの過程で、非合法に盗んだ金銭は、食料品、娯楽、家賃の支払いなどに使ったことを自白した。ほかにも容疑者たちは、未成年の少年を犯行に誘引していた。この少年は恩赦により、刑事責任を問われなかった。捜査の結果、132件の犯行が明らかになり、被害総額は12,000ルーブル（4,500ドル）を超えることが判明した。2人の行動は、刑法第212条3項「コンピューター機器を利用した巨額な窃盗罪」及び第172条1項「未成年犯罪誘引罪」に該当する。強制措置として、1人には外出禁止及び行動制限についての誓約書という形で適用され、もう1人には身元保証が適用された。

ウ 2月3日付記事によると、ミンスク市在住の26歳女が、SNSや出会い系サイトで偽名や別のモデル女性の写真を使用し、知り合った被害者たちから、家賃や薬代、食品代などの虚偽の理由で金銭をだまし取った。1年半の間に2人の被害男性から21,000ルーブル以上の金額を受け取った。女は、刑法第209条3項「巨額の詐欺罪」に問われ、懲役2年6か月が課された。また、物的損害の賠償金として19,000ルーブル以上、精神的苦痛の慰謝料として1人あたり1,000ルーブルが女から徴収された。

エ 2月20日22:45頃、ミンスク市プーシキン大通りにおいて、乗用車4台の玉突き事故が発生した。Renault Meganeを運転していた事故当事者の28歳男性運転手からは、2.65パーミルのアルコールが検出され、居眠り運転をしていたと見られている。

オ 3月25日付記事では、モギリョフ市からシュクロフ市へタクシーで移動していた乗客によると、運転手は疲れて終始眠そうな様子で、マスクを着用していたためすぐに気が付かなかったが、泥酔していた。乗客の女性は、清算後、すぐに交通警察へ通報した。警察のアルコール検査で、運転手の呼気から4.1パーミルが検出された。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の中の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。